

「2023年度 高等教育機関における ICT 利活用に関する調査研究」FAQ

A. 今回の調査自体に関して

1) 調査の目的は何ですか？

我が国の高等教育機関等における ICT 活用教育の全体像と ICT 活用教育の推進を促すための要因を明らかにし、その普及を加速するにあたっての方策について提言することを目的としております。

2) 今回の調査の主体である大学 ICT 推進協議会 (AXIES) とはどのような組織ですか？

大学 ICT 推進協議会 (AXIES) は、高等教育・学術研究機関における情報通信技術を利用した教育・研究・経営の高度化を図り、我が国の教育・学術研究・文化ならびに産業に寄与することを目的に、活動をしています。AXIES は、Academic eXchange for Information Environment and Strategy の略称であり、AXIES (アクシーズ) と呼ばれています。詳細については、以下の URL にアクセスし、ご覧ください。

<https://axies.jp/ja>

3) 調査に必ず回答しなければなりませんか？

回答は任意となりますが、本調査は文部科学省の協力を得て実施されており、我が国における高等教育機関の ICT 利活用に関する数少ない悉皆調査です。また、本調査の集計結果は文部科学省にも共有され、今後の高等教育政策にも活かされますので、本調査の主旨をご理解いただき、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

4) いつまでに回答する必要がありますか？

本調査の回答は、令和 6 年 1 月 31 日 (水) までをお願いしております。

5) 今回の調査の結果は、公表されますか？

本調査の結果は、機関を特定できない形式で集計し、AXIES のウェブサイトや年次大会にて、結果を公表することを予定しております。

過去の調査結果は、以下ウェブページにて公表されています。

https://axies.jp/report/ict_survey/

6) 回答データの取り扱いについて、教えてください

本調査は、AXIES の ICT 利活用調査部会がアンケートシステム SurveyMonkey を利用し実施しています。また、本調査で得られた回答データは AXIES の研究員により集計分析され公表されます。なお、本調査の成果は学会等で発表されることがあります。上記以外の用途

には利用しません。

【AXIES ICT 利活用調査部会メンバー】

主査： 重田勝介（北海道大学）

メンバー： 酒井博之（京都大学）、辻靖彦（放送大学）、稲葉利江子（津田塾大学）、
平岡齊士（放送大学）、伏木田稚子（東京都立大学）

B. 調査の回答に関して

1) ウェブアンケートで回答する前に質問項目を確認することはできますか？

ウェブアンケートで回答する前に、アンケート質問項目を記載した調査票の PDF ファイルをダウンロードし、質問項目を確認することができます。質問票は、以下調査サイトよりダウンロードしてください。

<https://ict.axies.jp/sig/67/>

2) 大学等コードがわかりません

調査票サイトのログイン直後のページに掲載しておりますので、ご確認ください。

3) 回答必須の項目で答えられないものがあるが、パスすることは可能ですか？

回答は全て必須項目となっておりますので、答えられない項目は「わからない」「あてはまる選択肢がない」等を選択してください。

4) 提出後、回答を修正したい時には、どうしたらよいですか？

修正をすることはできません。お手数をおかけしますが、はじめから回答し直してください。最新の回答データを回答結果とさせていただきます。

5) 郵送での回答を受け付けていますか？

今回の調査では、郵送での回答を受け付けておりません。お手数をおかけしますが、送付文書に記載のウェブアンケートからご回答下さい。

C: 過去の調査に関して

1) 過去にも同様のアンケートが行われていますか？

本調査は、これまで文部科学省から委託された、京都大学、放送大学オンライン教育センター（旧 ICT 活用・遠隔教育センター）、旧独立行政法人メディア教育開発センターが平成 17 年度より実施してきた、e ラーニング等の ICT を活用した教育の現状把握及びその分析を行う調査を引き継ぐ形で実施しております。そして平成 27 年度からは、大学 ICT 推進協議会 (AXIES) が主体となり本調査を実施しております。

2) 過去に同様のアンケートが行われたのであれば、その回答を見ることはできますか？

過去の調査結果については AXIES のウェブサイト上に公開しておりますが、機関個別の回答結果につきましては、ご提供できかねますのでご了承下さい。

3) 過去の調査報告書が公開されているのであれば、教えて下さい。

過去の調査報告書は下記の AXIES のウェブサイト上にて公開しております。

https://axies.jp/report/ict_survey/

また、平成 25 年度に京都大学が代表機関として実施した調査「高等教育機関等における ICT の利活用に関する調査研究」の報告書は、以下の文部科学省のサイトからご覧いただけます。

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/itaku/1347642.htm

D：各質問項目について

- 1) 科目数の数え方は半期のモノは0.5、通年科目は1として計算してよいか？
2セメスター制の半期を占める科目を「1」としてカウントして下さい。通年で開講される科目であれば「2」としてカウントして下さい。
- 2) 共通科目のカウント方法について、ダブルカウントとなっても問題ないか？
ダブルカウントとなっても問題ありません。
- 3) アンケート項目「基本情報」において、高等専門学校における本科生と専攻生は、生徒分類の「学生（学部）」「学生（研究科）」のどちらに振り分ければよいか？
研究科というのは大学院にあたりますので、学部でご回答ください。
- 4) 正職員数について、技術職員についても正職員（事務職員）として計上してよいか？
正職員として計上して下さい。

E: 用語集

回答の際に、参考にしてください。

- アクティブラーニング型授業

学習に対する学生の能動的な参加を取り入れた教授・学習法の総称のこと。

- インストラクショナルデザイン (ID: Instructional Design)

インストラクショナルデザインとは、高等教育においては、教育・学習の効果と効率と魅力を高めるための体系的なアプローチに関する方法論のこと。

- インフラ (infrastructure)

ICT 基盤となる設備や制度のことで、本調査では特に設備のことを指す。

- オープンエデュケーション

ウェブなどを通じ、誰もが無償（または安価）で教育を受ける機会を得られる世界を実現するという考え方やそれに向けた取り組みの総称のこと。

- オープンな教育リソース (OER: Open Educational Resources)

オープンな教育リソースとは、インターネット等を通じて無償で入手可能な講義教材（OCW、講義ビデオ、電子教科書、学習コンテンツ等）、教育ソフトウェア等を含む教育リソースを指します。

- オンライン授業

ネットワークを経由して行う形式の授業のこと。対面授業の代替として行われるビデオと音声を用いたオンライン授業など、学習者が同じ時間帯に一斉に授業を受ける「遠隔授業（リアルタイム型）」と、学習管理システム（LMS）等を使った反転授業や電子掲示板を用いた授業外学習など、学習者が自身の時間の都合に合わせて学習する形式である「遠隔授業（オンデマンド型）」に分類されます。なお、テレビ会議システムを用いた双方向授業など、キャンパス間もしくは大学間で、学習者が同じ時間帯に一斉に授業を受ける形式は、本調査では「遠隔合同授業（同時双方向型）」と呼称しています。

- 入学予定者向けサービス (Online Admission System)

入学予定者向けサービスとは、高等教育機関が入学許可者を選抜するため、入学を希望する学生が、願書を提出したり高等教育機関が要求した課題・成績等の情報を応募のために提出するサービスやシステムのこと。

- リメディアル教材

基礎学力の補習をおこなうための教育で用いる教材のことで、ここでは大学教育を受けるにあたり必要な基礎学力の育成を行うためのものを指す。

- eポートフォリオ

学習者が、レポート、試験、作品等の学習成果や学びの経験を電子的に保存・蓄積する仕組みのこと。

- eラーニング

コンピュータやネットワークを用いた学習や教育のこと。

- ICT活用教育

ICT（Information Communication Technology）を使った教育のこと。「情報通信技術」「情報コミュニケーション技術」などと訳される。

- LMS: Learning Management System

LMSは、学習管理システム（LMS）とも訳され、教材の配信、レポートや課題の提出、テスト、電子掲示板等の機能により授業に関する教育・学習環境を支援するためのオンラインシステムのこと。

- MOOC: Massive Open Online Course

MOOCは、大規模公開オンライン講座とも訳され、インターネット等を通じ、誰もが無償または安価で受講できる講義のこと。大人数（数千～数万名）の受講者を対象としており、受講者は講義ビデオやオンラインテストなどを使って学習を進める。通常、数週間～数ヶ月の受講期間が設けられており、受講期間終了後には成績が提示され、合格者には修了証が発行されることもある。例えばedX、Coursera、JMOOC等のプラットフォームが存在する。

- PBL型授業（Project-Based Learning、Problem-Based Learning）

PBLには、プロジェクト型学習（Project-Based Learning）、課題解決型学習（Problem-Based Learning）がある。本アンケート調査では、ある学習課題を小グループなどに分かれ学習者が主体的にその課題に取り組む教育・学習形態を指す。